

保育目標 心身ともに健やかでいきいきとし、地域の中で育つ子ども～健康な子ども 共に育ち合う豊かな子ども 自分の思いを表現する子ども 感性豊かな子ども

項目	重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした 自尊感情の構築	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもについて話し合う時間を確保する為、週に一度、個人の連絡ノートを書かない日を設け、全学年がクラス会議を週一回以上、行えるようにする。 個別の配慮や関わりを検討する会議では、より子どもの姿を職員間で共有しやすくするために、写真を用いて報告や相談などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 週一回、個人のノートを書かない日を設けたことで、職員間での話し合いがしやすくなり、全学年が週一回以上、クラス会議を行なえるようになった。そのことで、子どもの共通理解が深まり、一人一人に応じた関わり方を考えながら保育できた。 今後は話し合いの形式を変え、より職員間の共通理解を広げて子ども理解を深める。 にじいる会議を設け、写真を用いて子どもの姿を伝え合うことで、より子ども理解を深められた。今後はさらに回数を増やしていきたい。
	資質・能力を育む 保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 環境を変えたところは写真やコメントと共に記録として残し、振り返りがしやすいようにする。 広い視野で環境構成や保育、子どもとの関わり方について考えられるように事務所に意見箱を設置する。全職員から意見が出るように呼び掛け、日を決めて月一回は担当が意見を集約し、一週間以内に改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児は異年齢で保育することが増え、各コーナーの担当で読み取りをし、環境や子どもの姿を話し合った。記録にも残しているため、今後に活かしていきたい。乳児も同じように話し合っているが環境のみの写真が少なく、記録に残せなかったため、改善していきたい。 朝夕の職員も含めた広い視野で環境構成や子どもとの関わり方を考えていきたかったが、ケガや保護者からの伝達の情報共有に留まっている。環境や関わり方に関してもこまめな情報共有や意見交換ができるよう、事務所職員が中心となってはたらかけたり機会を作ったりしていく。 ミニ園内研修で乳児・幼児がお互いの保育や環境を見に行く機会を持ったが、違った目線での意見が聞けてとてもよい機会となった。今後も続けていく。
	ちがいを認め合える 仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みのメインとなる日を各クラスでずらし、保育者が他クラスの保育を見たり共に振り返ったりできるようにすることで、職員間の共有を図る。 年一回以上、保護者も伊同教や園内の人権研修などに参加できるようにすることで、語り合いの機会を作る。 保護者への声掛けや取り組みについてのドキュメンテーションの中でしっかりと経過を伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が他クラスのドキュメンテーションを見ることで一定の共有は図れたが、取り組みを実際に見たり共に振り返る機会は持てなかった。今後は取り組み前にそういう機会が持てるよう日程調整をする。 取り組みの際、保護者に小さかった頃の写真を持参してもらったり、書面での研修に参加してもらったりする機会が持てた。そのことで人権について関心を持ったり考えたりするきっかけに繋がった。今後もこういう機会を積極的に作っていき、保護者への啓発となるようにしたい。
資質向上 保育者の	職員研修・園内研修 の充実	<ul style="list-style-type: none"> 研修報告はできるだけタイムリーに伝える場を持ち、写真だけでなく動画も活用する。 園内研修は環境、保育、子どもへの関わりなど見るポイントを絞ったり研修会の回数を増やしたりして職員の学びへと繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修報告は回覧ではタイムリーに伝えることを意識して取り組めた。しかし、参加した職員の説明があることで資料と結びついたり、質疑応答へと発展したりするため、乳児会議・幼児会議の冒頭で報告を行うようにし、より深い学びへと繋げていきたい。 園内研修はポイントを環境に絞って行ったため、昨年度よりも職員全体で考えたり準備したりでき、より深く取り組むことができた。
	チーム保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各会議に担当以外の職員も参加するようにし、参加できなかった職員への伝達を徹底する。 各クラスで行っている写真の読み取りを職員構成を変えながら行う。(意見を出しやすいよう、小グループで行う) 	<ul style="list-style-type: none"> 周知徹底できず、毎回、担当以外の職員が参加するというのは難しかった。来年度は保育内容を考える時に入るといところから始めていく。 乳児、幼児ではクラスごとだけではなく異年齢で読み取りする機会が増え、幼児は定着しつつある。今後は職員会議の中で乳児、幼児の枠を越えて読み取りする時間を確保していく。そうすることで園全体で子どもとの関わりや環境を考える機会となるようにする。

	<p>小学校教育との接続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの取り組みを知るために職員間での交流を持つ。自園での取り組みが小学校以降の人権教育へと繋がることを踏まえ、子どもの姿を共有し、相互理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が仲間づくり集会に、年長児が小学校探検に参加させてもらうことで就学するにあたり大切にすべきことを再発見することができた。 ・取り組みのドキュメンテーション、保育要録を作成し、小学校との連携に努めた。 ・今後は小学校の窓口となる先生が誰になるのかを明確にしておき、交流の回数が増やしていけるようにする。
--	------------------	---	---

<備考>

- ・避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。
- ・災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年1回点検している。
- ・毎月1回、保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者会を開催し、各園のリスク事案について共有している。
- ・リスク担当者会で検討し、作成した怪我・病気対応マニュアル、アレルギー対応マニュアル、与薬事故対応マニュアル、与薬マニュアル、火災マニュアル、地震マニュアル、不審者対応マニュアル、園外保育マニュアル、感染症マニュアルを全園（保育所、こども園、児童発達支援センター）で共通理解し、マニュアルに沿って安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。